

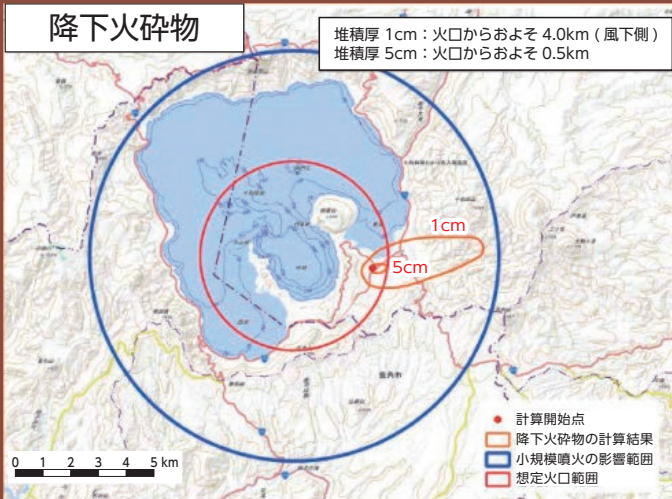
十和田火山噴火想定マップ

十和田火山は、日本の歴史上最大の噴火をした活火山であり、気象庁では24時間体制で監視・観測を行っています。将来、もし十和田火山が噴火した場合に備えて十和田火山を知っていただきたいと思います。

十和田火山の災害想定範囲について、詳しくはURLまたはQRコードからご確認ください。
市ホームページ
https://www.city.kazuno.akita.jp/kurashi_tetuzuki/bosai_saigai/3/3868.html



小規模噴火 (数百万m³の水蒸気噴火を想定)

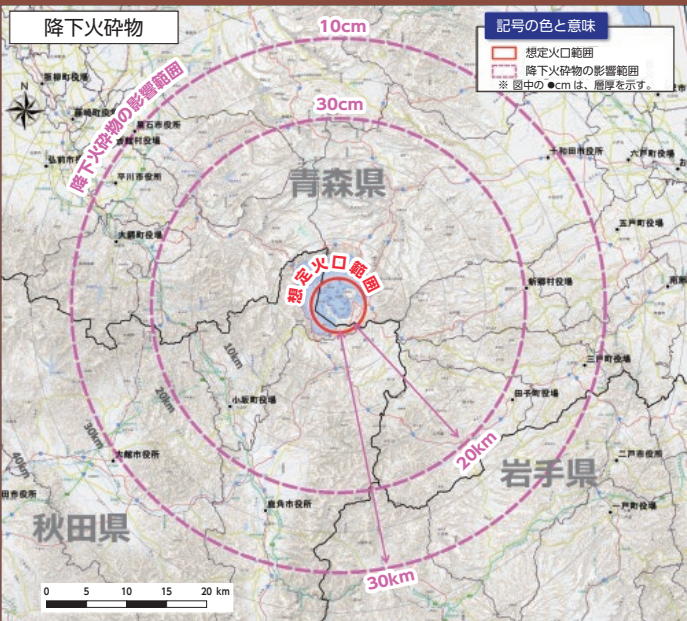


噴火と同時に弾道を描いて飛び散る大きな噴石や噴煙から落下する降下火砕物を想定しています。十和田火山では小規模噴火の実績は確認されていません。起きた場合には、中規模噴火や大規模噴火へと移っていきと考えられます。

噴火様式	水蒸気噴火
想定される現象	大きな噴石 降下火砕物
想定した根拠、実績等	御嶽山西暦2014年噴火等の噴火事例をもとに想定。 十和田火山での実績なし。

左図の●地点から西暦2014年御嶽山噴火と同じ高さまで噴煙があがって同じ量の火山灰を噴出したと仮定したときに、風に流された噴煙から火山灰や軽石がどのくらい広がって降り積もるか計算した結果です。想定火口範囲内であれば、どこからでも噴火する可能性があります。噴煙の高さや風の向き・速度などによって積もる厚さや距離は変化します。

中規模噴火 (数億m³規模のマグマ噴火を想定)

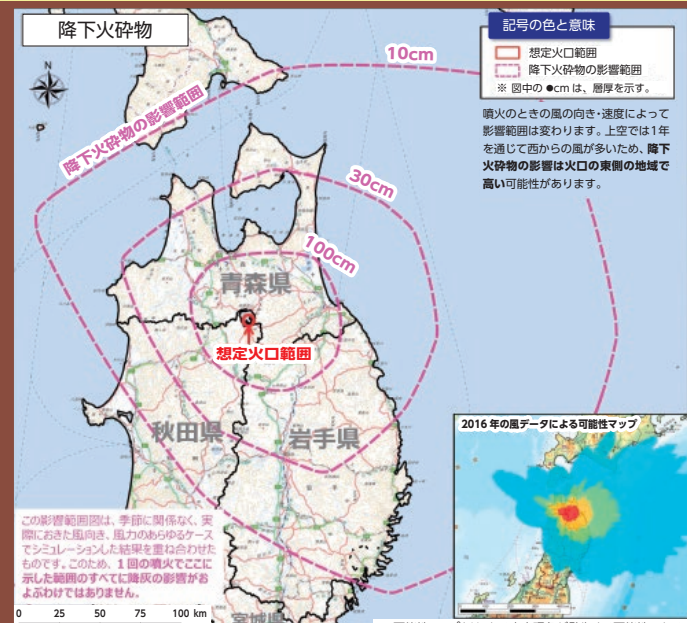


噴煙が上空に上がったあと、ある場所から崩れ落ちて雪崩のように斜面を流れ広がる火砕流・火砕サージと、風に流された噴煙から軽石や火山灰が降ってくる降下火砕物の発生を想定しています。中規模噴火のあと、大規模噴火がおきることも考えられます。

噴火様式	マグマ水蒸気噴火 またはマグマ噴火
想定される現象	火砕流・火砕サージ・ 降下火砕物
想定した根拠、実績等	西暦915年の噴火の火砕流、 火砕サージ、降下火砕物の 分布実績を参考に想定。

◆十和田火山で過去に起きた中規模噴火の実績を参考にして影響範囲を想定しました。
◆軽石や火山灰が厚さ30cm以上で積もる範囲は風下側で火口から約20km、厚さ10cm以上となる範囲は風下側で火口から約30kmの範囲です。
◆噴火のときの風の向き・速度によっても積もる厚さや距離は変化します。

大規模噴火 (数十億m³規模のマグマ噴火を想定)



噴煙が上空に上がったあと、ある場所から崩れ落ちて雪崩のように斜面を流れ広がる火砕流・火砕サージと、噴煙が風に流されながら軽石や火山灰を降らせる降下火砕物の発生を想定しています。

噴火様式	マグマ水蒸気噴火 またはマグマ噴火
想定される現象	火砕流・火砕サージ・ 降下火砕物
想定した根拠、実績等	西暦915年の噴火のクライ マックスのときに起きた火砕 流・火砕サージ (毛馬内火 砕流)、降下火砕物の分布実 績を参考に想定。

◆降下火砕物による被害には、積もったときの厚さや重さを考えて注意すべきこと(家屋の倒壊など)と、降ってくる石や灰の大きさを考えて注意すべきこと(衝突、健康被害など)があります。

十和田火山災害想定影響範囲図より抜粋